

特別支援学校(視覚障害)のセンター的機能の現状と課題は？

【研究の背景】

我が国において障害者の権利に関する条約が批准されインクルーシブ教育が進展すると、これまで以上に地域の小・中学校等で学ぶ視覚障害のある児童生徒等の数が増えることが考えられます。

そのような状況においては、視覚障害者を教育する特別支援学校(盲学校)が、そのセンター的機能を効果的に発揮して、視覚障害教育の指導の専門性に基づく適切な支援を行うことが必要となります。

【研究の趣旨及び目的】

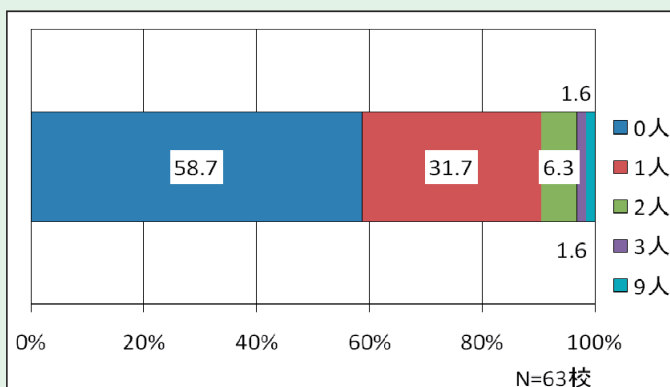
本研究では、小・中学校等に在籍している視覚障害のある児童生徒等の指導・支援の実際について、児童・生徒等自身の現状と、その指導・支援者、支援機関等の現状の双方について、実地調査とアンケート調査によってその詳細を把握することを目的として実施しました。

【研究の内容】

本研究では、上記の状況を踏まえて次の諸点について研究を実施しました。

- ① 視覚障害者を教育する特別支援学校(盲学校)におけるセンター的機能について、全70校(2分校を含む。)を対象にアンケート調査を実施し、その現状と課題を明らかにしました。
- ② 先行研究や教育相談等で把握している視覚障害のある児童生徒が在籍している小学校(2校)における学習状況について実地調査を実施し、その現状と課題を明らかにしました。

【センター的機能に関する実態調査の結果】



<センター的機能を担う専任者の人数>

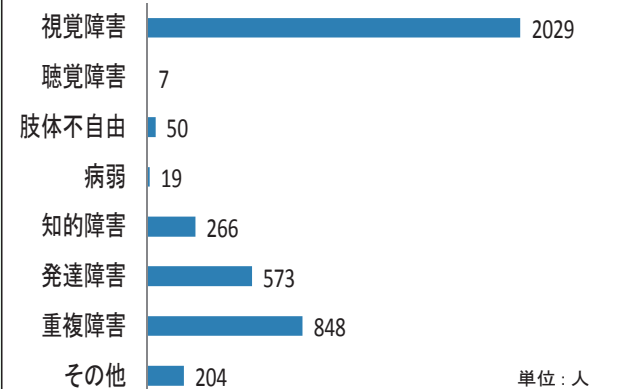
- ・58.7%の学校では専任者を配置していません。
- ・専任者が1名の学校は31.7%、2名の学校は6.3%、また、3名を配置している学校は1.6%にとどまっています。
- ・なお、専任者を9名配置している学校が1校ありましたが、それは複数の障害種を対象とする総合支援学校となった旧盲学校でした。

注) 本調査のみ調査対象は2分校を除いた68校で、63校から回答があった。

<障害種別の支援人数>

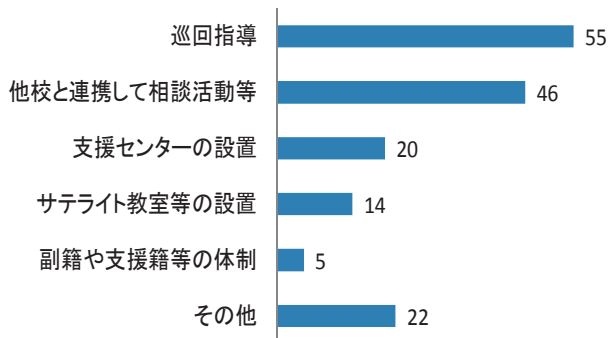
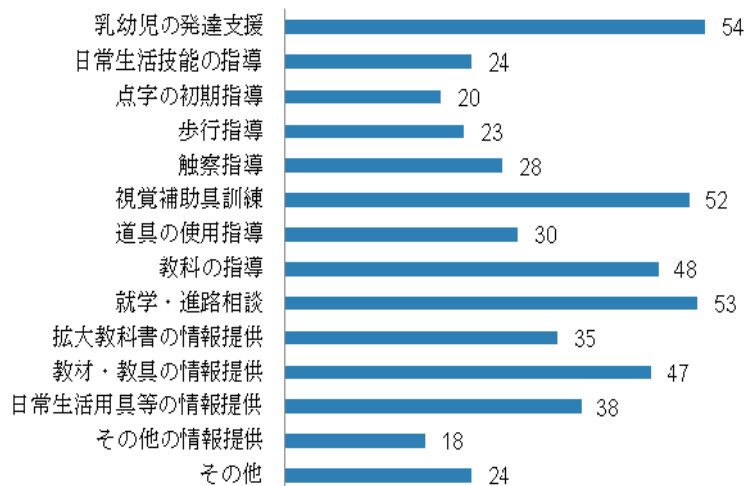
- ・盲学校であっても、様々な障害への相談や支援に対応していることが分かりました。
- ・視覚障害に関して、全ての盲学校において、年間に指導・支援を行っている児童生徒等の人数は2,029人^{注)}という結果になりました。

注) 文部科学省が平成21年度に全国調査を行って把握した小・中・高等学校及び盲学校以外の特別支援学校に在籍している視覚障害のある児童生徒数は3,534人となっています。



＜視覚障害のある児童生徒等への支援内容（校数）＞

- ・全ての項目が比較的まんべんなく選択されています。
- ・その中でも、比較的多く実施されていたのは、「乳幼児の発達支援」、「視覚補助具の使用訓練」、「就学・進路相談」が3項目でした。
- ・「点字の初期指導」や「歩行指導」など、盲幼児、盲児童生徒に関する項目は実施している学校が相対的に少ないことが分かりました。



＜地域支援に関する特徴的な取組＞

最も多くの学校で行われている特徴的な取組は「巡回指導」と「他校と連携して相談活動等」の2項目で、それぞれ55校、46校が実施しています。支援センターを設置している学校は全体の約3割にあたる20校でした。

また、サテライト教室等を設置しているのは2割にあたる14校という結果となりました。

＜センター的機能の充実に向けての課題＞

センター的機能を充実させるための課題としては、以下の諸点が挙げられました。

- 指導の専門性の担保と人材の育成
- 全校体制による取組
- 地域支援、通級指導に関わる教員の定数外措置
- 予算の確保
- 視覚障害のある児童生徒等の数の把握
- 医療機関等、他機関との連携

【小学校における実地調査によって明らかとなった指導上の課題】

- 文字の読み書きや物の操作など、他の児童より時間がかかることへの対応が必要なこと
- 達成できなかった課題を完了するための時間を保障すること
- 実際の授業場面における、文字の読み書きやコンピュータの操作等の情報処理能力の評価を行う必要があること
- 大勢の中に身を置きながら受ける刺激を学習活動などへの動機付けにすること
- 不足しがちな視覚情報を補うことを担保すること
- 他の児童が支援したり、当該児童が自ら働き掛けを行うことができる環境を設定すること
- 視覚障害児に対する適切な障害者観を育てるための理解啓発を行うこと

本リーフレットは、当研究所で行った次の研究を基に作成しています。

【研究課題（研究期間）】

専門研究B「小・中学校等に在籍している視覚障害のある児童生徒等に対する指導・支援に関する研究」（平成22年度）

【研究代表者／問い合わせ先】

田中良広 e-mail : yoshihiro@nise.go.jp
 研究分担者
 澤田真弓・金子 健・大内 進・土井幸輝